

藤原旭希の車窓から

代田中・3 藤原 旭希

○・二ほどの視力

僕はいつも眼鏡をかけている
だからほとんどのことは
レンズ越しになる

ふと思う

なんか黒板見にくいな……。

目をこすりもう一度

やっぱり見にくいな……。

眼鏡替えるか

新しい眼鏡

外側は黒色

内側は銀色

形は丸を横に潰したようなものにした
ぼうつとしていてと

窓の内側から外を

眺めているような

勢いよく走る電車から

流れていく街並みを

眺めているような

そう思うと前の窓は

退屈しないおもしろいものだった

初めて級長になって

クラスメイトの前で

意気込みを語ったあの窓

選挙の結果を聞き

大粒の水がついて見えなくなった

あの窓

それでもめげずに

もう二度演説した

あの窓

いろいろな景色を思い出す

そしてその中に

必ず誰か支えてくれた人がいた

友達

家族

先生

一人でもいなかったら

今の僕はいなかっただろう

人生は出会いだというのが

それを心から感じた三年間だった

新しい眼鏡に替えた

この窓から

次はどんな人や景色が見えるだろうか

とても楽しみだ

もしも前の窓のような

大一番が来るなら

僕の頭よ

僕の声よ

僕の手足よ

どうかうまく動いてくれ